



上/ 玄関から左手に進み、廊下を降りていった部屋をアトリエ兼サロンとして使用していた。現在は「睡蓮」の複製画などが掛けられている。左/ アトリエ兼サロンに立つモネの写真。

Musée des Impressionnistes Giverny
ジヴェルニー印象派美術館
99, rue Claude Monet 27620 Giverny
☎+33(0)2 32 51 94 65
www.mdig.fr

モネの家と庭から徒歩5分ほどの場所に美術館。以前はアメリカン・アートの美術館だったが、現在は19世紀から20世紀後半にかけての、印象派に関する幅広いテーマで作品を収集、企画展を開催している。

© J. Faivre (ADAGP)



© N. Meneau

Exhibition

2013年3月29日～10月31日
「クロード・モネの世界」

印象派美術館が所蔵するモネのスケッチや作品の複製、博物館から学芸員が選んだ代表的な印象派作品を展示。印象派と後印象派の歴史と共賞を絶えずする展覧会。

2013年7月31日～10月31日

「睡蓮の池～平松礼二、モネへのオマージュ」

日本画家、平松礼二がモネの「睡蓮」などジャポニスム作品にインスピレーションを受けて描いた、風景大作品を含む日本画を20点以上紹介する。また、モネの日本雲南への縁起を物語る、北斎や広重などの貴重な複製画も展示される。



平松礼二「ジャポニスム」48号作
Giverny, Jardin de Monet (Fountain) 1998
Collection particulière en dépôt au Kyoto City Art Museum
©Horizawa P&G. ©Tous Droits réservés

外人に自慢するべきことではない」とはモネ自身の言葉だが、これは多くの庭でもあった。実際に、庭を題材にした作品は500点以上も残されている。モネの庭に至っては、晩年の2年間を決定する重要なモチーフとなり、「睡蓮」の連作として結実している。

モネに影響を与えたジャポニスム。

柔らかな光を受けて、水面をきらめかす「水の庭」。老画家が絵筆を握り、池のほとりに立つ姿が目につくふようだ。この蓮池は、モネが浮世絵や版画からヒントを得てつくった。雨後の日本文化への傾倒ぶりを象徴するものは、庭だけでなく家の中にも残されている。随所に別家の美意識が反映された家へ足を踏み入れる。レモンイエロー一色で統一された食堂では、その壁を埋め尽くす

ようにたくさんさんの浮世絵や日本画が掛かる。1867年、パリ万国博覧会での日本館の展示がきっかけとなり、ジャポニスムと呼ばれた狂热的な日本美術ブームが巻き起こった。浮世絵の斬新な構図や自由な色使いが、当時の画家たちには大きなインスピレーションを受けた。モネもそのひとりだ。同じテーマ、季節や時間を変えて描くという連作の手法は、北斎の「富嶽三十六景」からヒントを得たとも言われている。

モネは生涯を通じて約230枚もの浮世絵を取寄せた。現在、モネの家のほとんどもあるジヴェルニー印象派美術館では、その貴重なコレクションが公開されている。また、日本画家の平松礼二がモネの庭にインスパイアされ、ジャポニスムを再解釈した作品も展示。モネにまつわる日本を併せて鑑賞できる展覧会。

モネが追い続けた色彩と日本、ジヴェルニーにはその美が今も息づく。



右/ 花が咲き開いた際の色彩や調和を計算し、植物が植えられた「水の庭」。左/ 蓮池の周囲に植えられた桜や藤なども日本画的な調和を加えた「水の庭」。



色彩溢れるモネの庭。モネの息子、ミシェルが遺言により芸術アカデミーへ寄贈し、1976年からクロード・モネ財団がその家と庭を丁寧に復元した。

Giverny

ジヴェルニー

20年以上の歳月をかけてつくり上げ、そして描いた、
モネの理想郷。

芳しい花の香りが、道り一面を包んでいる。こぼれんばかりに花を吐けるバラ、そよ風に揺れるスイトピーやグラジオラス。そして色とりどりの花々は鏡のように咲き誇る。誰もが心をかき立てられるほど、その庭の景色は美しい。

パリの北西約80kmに位置するジヴェルニーは、セーヌ川の支流エプト川のはとりに佇む小さな村だ。クロード・モネはこの村で、1883年から死を迎えるまでの43年間を過ごした。モネの終の住み処。その庭は今も、モネがキャンパスに描いたままの自然美を見せている。印象派を巡るノルマンディーの旅を始める場所として、これ以上ふさわしい場所もないだろう。

ピンクとグリーンに色分けされた母屋の前に広がる、この花の庭「クロード・ノルマンディー」の美しい庭。雑草が浮かぶ静かな池には、ル・ボン・ジャポネ(日本橋)と名付けられた太鼓橋が架かり、うっそうとした柳がなびく。画家はこれらの庭を自ら設計し、世界中から植物を集め、庭づくりにエネルギーを注ぎ込んだ。庭こそがモネの最高傑作だと称した人もいられるほどだ。

「絵を描く能力と庭をつくる能力以



La Maison et le Jardin de Claude Monet
モネの家と庭
84, rue Claude Monet 27620 Giverny
☎+33(0)2 32 51 29 21
www.fondationmonet.com/jp

モネの終の住み処となった家。レモンイエローに塗られた食堂の他、ブルーのタイルが美しいキッチン、アトリエ兼サロン、書斎などを見学できる。